学校番号	４０９

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「新詳　世界史Ｂ」　（帝国書院）						
副教材等	自作プリント等						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸と世界の諸地域の地理的な広がりを感じてください。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を考えましょう。
・授業プリントを完成させる作業などは授業中に集中して時間内に行いましょう。

２　学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・世界の歴史の枠組みと展開を地理的条件にも関連づけ理解させる。
・文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させ、国際社会に主体的に生きるための自覚を培う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見いだし，文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史についての基本的な事柄を,我が国の歴史と関連付けながら理解し,その知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 発表 ノート･プリントなど	学習状況の観察 発表 ノート･プリントなど 定期考査	学習状況の観察 ノート・プリントなど 定期考査	学習状況の観察 ノート・プリントなど 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	海洋による世界の一体化	西ヨーロッパの覇権争いと世界的な分業体制の拡大 ・イギリス革命からウェストファリア条約に至る国際関係を学ぶ。あわせてイギリスでは産業革命の起こる条件が整ったことを学ぶ。		○		○	a: ヨーロッパ各国の変革と主権国家体制に関心を持ち、追求している。 b: 英仏の覇権争いがなぜ世界各地に及んだのかを考察し、表現できる。 c: 地図や図表からヨーロッパの国境の変化や、英仏の覇権争いなどを指摘できる。 d: ヨーロッパ各国で近代的な国際関係が形成されていったことを理解する。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査
		環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生 ・環大西洋革命が相互に関連して、ナショナリズムの意識を広げて国民国家を形成していったことを学ぶ。		○		○	a: 産業革命・市民革命の前後で，生活や社会のあり方がどのように変化したかを，さまざまな視点から追究している。 b: 産業革命で変化した社会，およびアメリカ独立・フランス革命によって形成された「国民国家」は，従来とはどのような点で異なるのか説明できる。 ｃ: 産業革命の展開や国民意識の広がりを，地図や図表などの各種資料を活用して指摘できる。 d: 産業革命による社会の変化のようすや，環大西洋革命によって国民意識が形成されていくことを理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

		イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 ・イギリスの覇権について学ぶとともに，ウィーン体制が自由主義の広がりの中で崩壊していく過程と社会主義思想の形成を学ぶ。またロシア・イタリア・ドイツ・アメリカなどの国民国家の形成過程を学ぶ。	○			○	a: イタリア・ドイツなどヨーロッパ各地で国民国家が形成されていった過程に関心がもてる。 産業革命と帝国の確立によって、イギリスが勢力を誇り、自由主義を主張したこと、また、自由主義はイギリスの社会にも影響を与えたことを理解する。 b: イタリアとドイツの統一を例に，国民国家の形成過程を考察し，表現できる。19 世紀のイギリスの覇権と近代世界システムについて総合的に考察している。 c: 地図や年表などを用いて，国民国家の形成過程を指摘できる。ウィーン体制下のヨーロッパについて、旧秩序の回復を図る勢力と国民国家をめざす勢力とが対抗することを地図などの各種資料から把握できる。 d: 欧米各国が国民国家としての体制を整えていく過程を理解している。 19 世紀前半の文化的潮流（ロマン主義）が自由主義･ナショナリズムの高まりと呼応していたことを理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

		世界の一体化の進展とアジアの変容 ・欧米諸国によってアジアの植民地化が進んでいく状況を地域ごとに学ぶ。また植民地が政治的支配を受けただけでなく，経済的にも従属していった過程を学ぶとともに，あわせて植民地化	○			○	a：アジア各地域の植民地化の過程や改革への模索に関心をもち，追究している。イスラーム世界は、軍事的劣勢になり、さまざまな問題があらわになってきたことを理解できる。 b：欧米諸国の進出に対するアジア各地域の動きを考察し，表現できている。 c：地図などの各種資料を活用し，欧米諸国の進出にさらされたアジア各地域の状況を指摘できる。 d：欧米諸国の進出に対するアジア各地域の外交・内政について理解するとともに，アジア諸国間の国際関係について理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

2学期	地域社会形成の模索	世界の一体化の完成とその影響 1　帝国主義と世界分割競争 第２次産業革命の中，帝国主義の時代が始まり，欧米諸国による世界分割が進むことを学ぶとともに，アジアにおける対応のようすを各地域の特色をふまえながら学ぶ。		○		○	a：帝国主義による世界の一体化が進む中，それにより圧迫されたアジア・アフリカの動きに関心をもち，追究している。 b：植民地支配＝文明化と正当化するヨーロッパの思想を，批判的にとらえることができる。また欧米諸国のアジア進出が，各地域のナショナリズムを高揚させる契機になったことを考察し，表現できる。イスラームが地域・民族をこえて拡大できた理由とその影響について考察し，表現できる。 c：交通・通信の発達と世界の一体化との関連を，地図などの各種資料を用いて説明できる。資料・地図などを活用して，イスラームの特色・広がりを考察できる。 d：欧米諸国が植民地を求めた理由として市場と原料供給地が必要であったこと，植民地化をまぬかれた国では欧米諸国の圧力に対する変革が模索されていたことについて理解している。イスラーム成立の背景と，地域・民族のわくをこえて拡大する理由について，イスラームの普遍性という観点から理解できている。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

	地域社会形成の模索	世界大戦の時代 ・「世界戦争」の時代においては，アジアのナショナリズムの高揚，社会主義国家の誕生，大衆社会の出現，ファシズムの台頭などが相互に関連した現象であったことを理解させ，考察させる。国際平和への努力もあわせて理解させ，考察させる。さらに戦後世界のわく組みが米ソを中心に形成されていくことを理解させ，考察させる。	○			○	a：二つの世界大戦がこれまでとは違う総力戦であることを理解し，追究している。 b：総力戦を支えた社会体制と，総力戦がもたらした影響について考察し，表現できる。 c：写真や映像などの資料を活用して，総力戦の実態やそれがもたらした社会的影響を例示できる。 d：第一次世界大戦と第二次世界大戦とで，「戦勝国」の，戦後処理を視野にいれた終戦までの動向に大きな相違があることを理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査
	地域社会形成の模索	東西冷戦から多極的国際社会へ ・アメリカの覇権，冷戦の展開，米ソ二極時代の終焉といった一連の流れとともに，地域紛争，西欧と日本の台頭に伴うアメリカの覇権の動揺，社会主義陣営の分裂と経済の低迷，アジア各地域の動向について学ぶ。		○	○		a：戦後世界の画期となった動きや事件に興味・関心をもてる。 b：戦後世界における資本主義陣営と社会主義陣営，第三勢力それぞれの動向を考察し，表現できる。 c：戦後世界の画期となった動きや事件について，各種資料を用いて因果関係を指摘できる。 d：戦後世界の画期となった動きや事件について理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

3学期	地域社会形成の模索	相互依存を深める世界 ・冷戦の終結がソ連と東欧社会主義圏を解体させたこと，地域統合が進展するとともに，BRICs のような新興国の伸長がみられることを理解させる。また，20 世紀末から 21 世紀にかけてグローバル化が進展する中で，新たな世界秩序が模索されていることにふれ，これからの世界について展望させる。		○		○	a: 地域紛争や新しい形の紛争（テロ），地域統合の進展，新興国の勃興，地球環境問題などに関心をもち，追究している。 b: 地域紛争，地域統合の進展，新興国の動向，地球環境問題などについて考察し，表現できる。 c: 新聞の国際面などに報道されているできごとの背景を，教科書の説明を参考にしつつ指摘できる。 d: 冷戦後も世界には解決すべきさまざまな問題がある一方で，ヨーロッパやアジアなどでは新たな地域協力の形が模索されていることを理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。